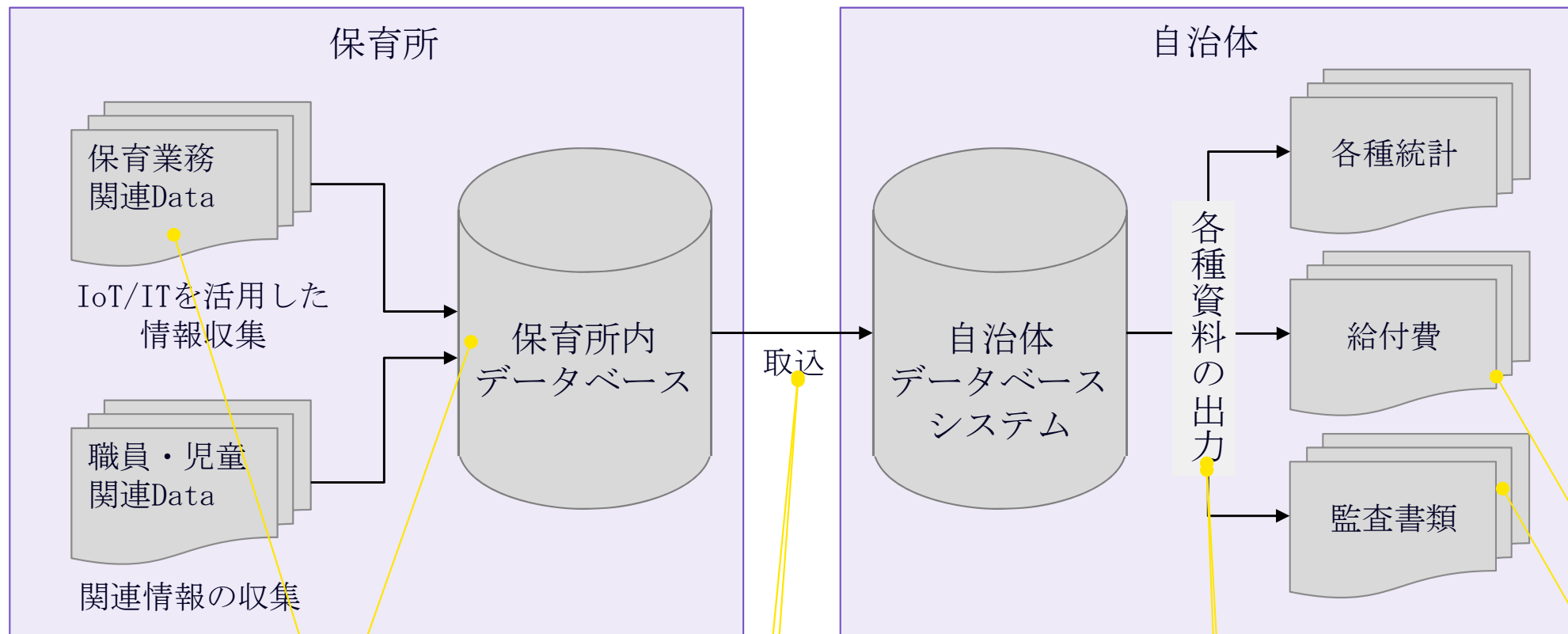


## 実証事業の内容

(保育事業のIoT技術利用によるデータベース構築及び  
プラットフォーム構築の検討)

# 1. 問題意識と本事業の実施目的

- 本事業では、保育事業の抱える諸課題を解決するために、以下のような保育所内データベース構築とそのデータを効率よく自治体システムに取り込むためのプラットフォームの社会実装を目的として実施します。
- 本事業は、保育士の事務作業をできるだけ効率化し、保育業務に多くの時間をさけるようにするために、①IoT技術を用いた保育所内データベース構築の設計・試行すること、それらのデータベースを活用し、保育関連行政事務（特に給付事務）の効率化を目的とした②一連の保育関連システムの構築を目的として実施します。



IoT導入が進んでいない  
保育士スキルに開きがある

DBが構築されていない

求められるデータセット  
が自治体により違う

情報セキュリティ上、連  
結が難しい

標準的なデータセットが  
確立されていない

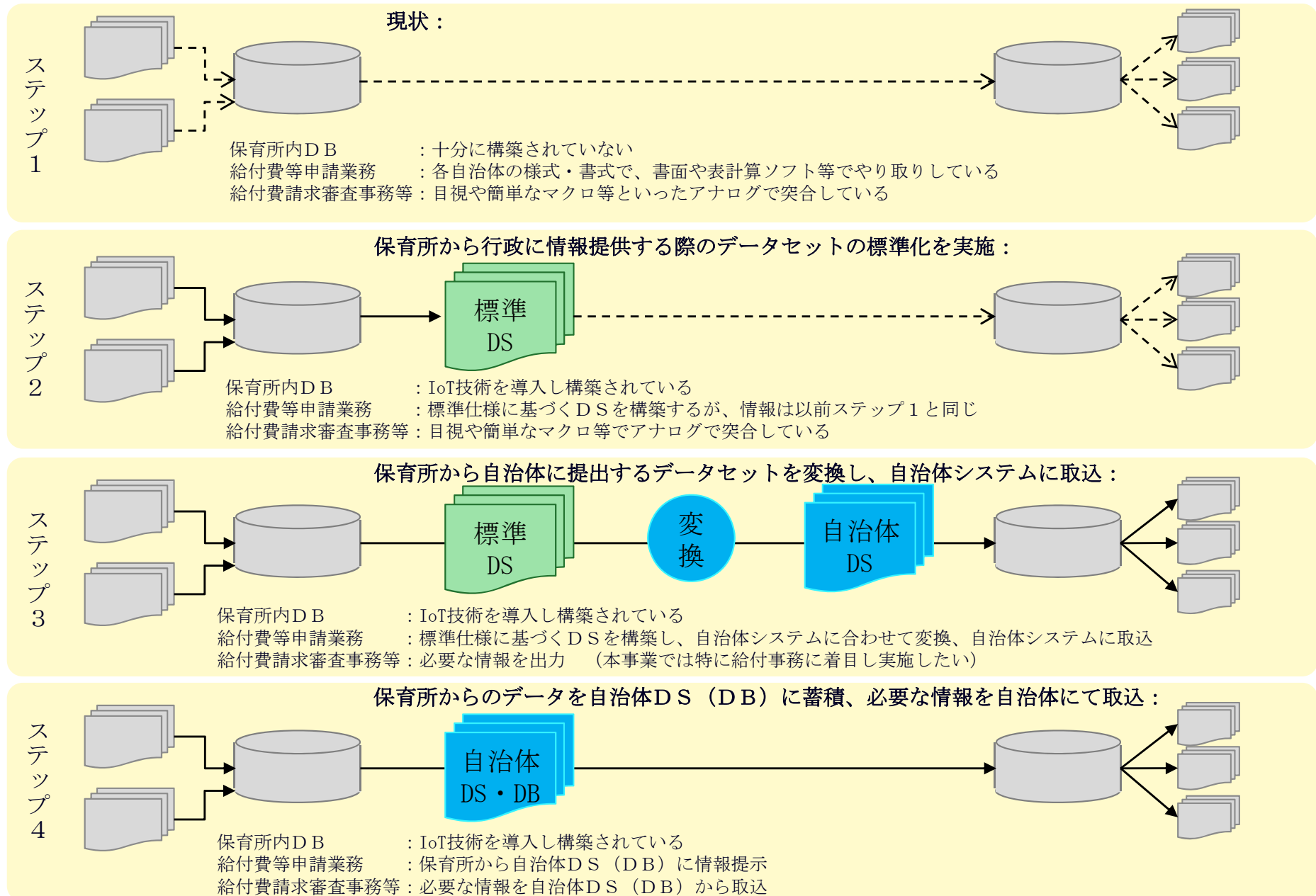
作成過程で手入力等の非  
効率な部分が多い

様式、添付書類等が自治  
体により多様である

担当官により監査の視点  
が違うことがある

## 2. 本事業の到達目標

- 前頁の目的を実現するには、段階があると考えています。本事業では、保育所や自治体それぞれの実情を踏まえ、最終的にはステップ4をめざし、標準仕様の整備および試行、施行結果の検証、実現に向けた課題の整理を行います。

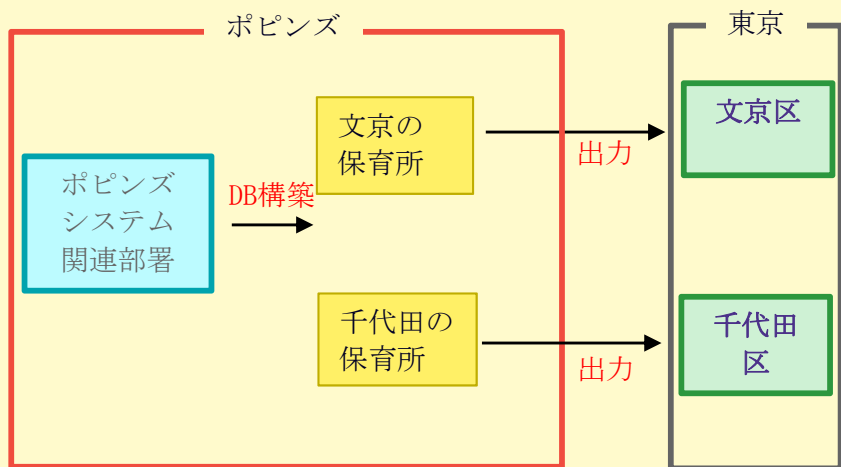


※ただし、後述する実証調査フィールドによっては、ステップ3、2にとどまる場合もあり、その場合はステップ4にすすめるための課題を整理します

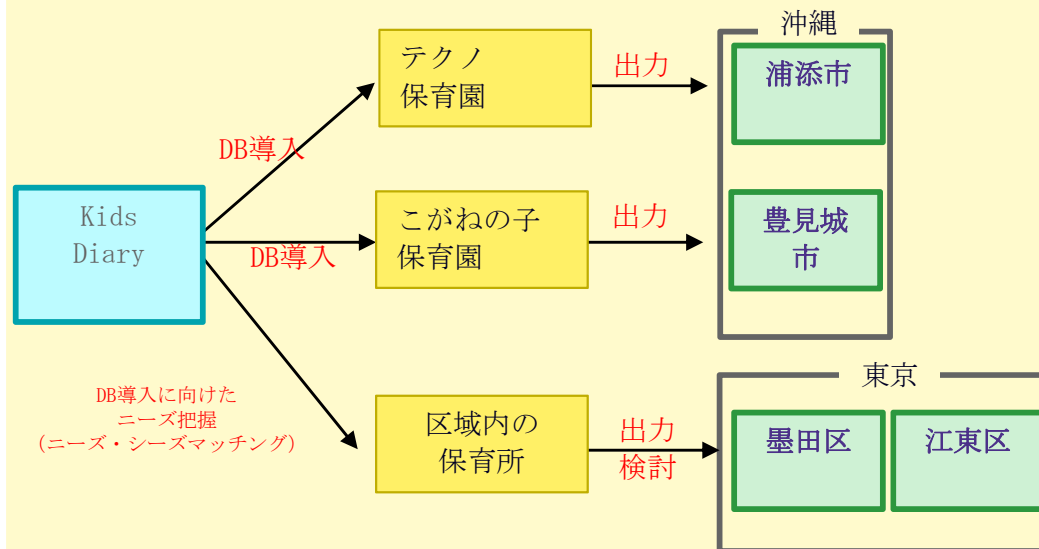
### 3. 4つの実証調査フィールド

- 本事業では以下の4つの実証調査フィールドを設定し、事業を進めます。
- 各協力事業者及び保育事業者、IoT/IT事業者、自治体と連携を図りながら事業を進め、検討委員会にて実施内容を検証します。

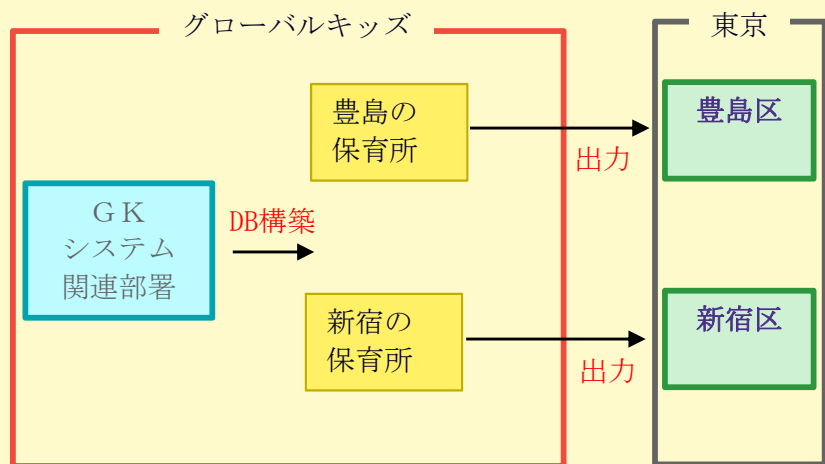
Field A (協力事業者：ポピンズ【保育事業者・IoT開発事業者】)



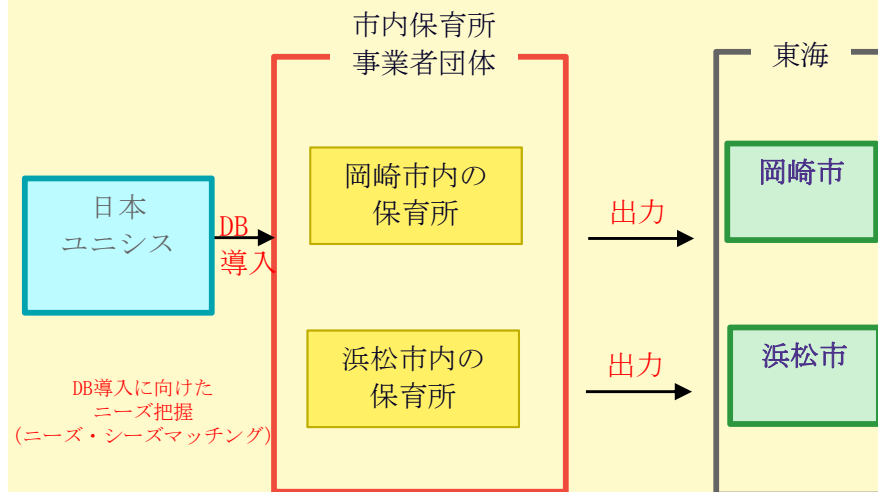
Field C (協力事業者：Kids Diary【IoT開発事業者】)



Field B (協力事業者：グローバルキッズ【保育事業者・IoT開発事業者】)

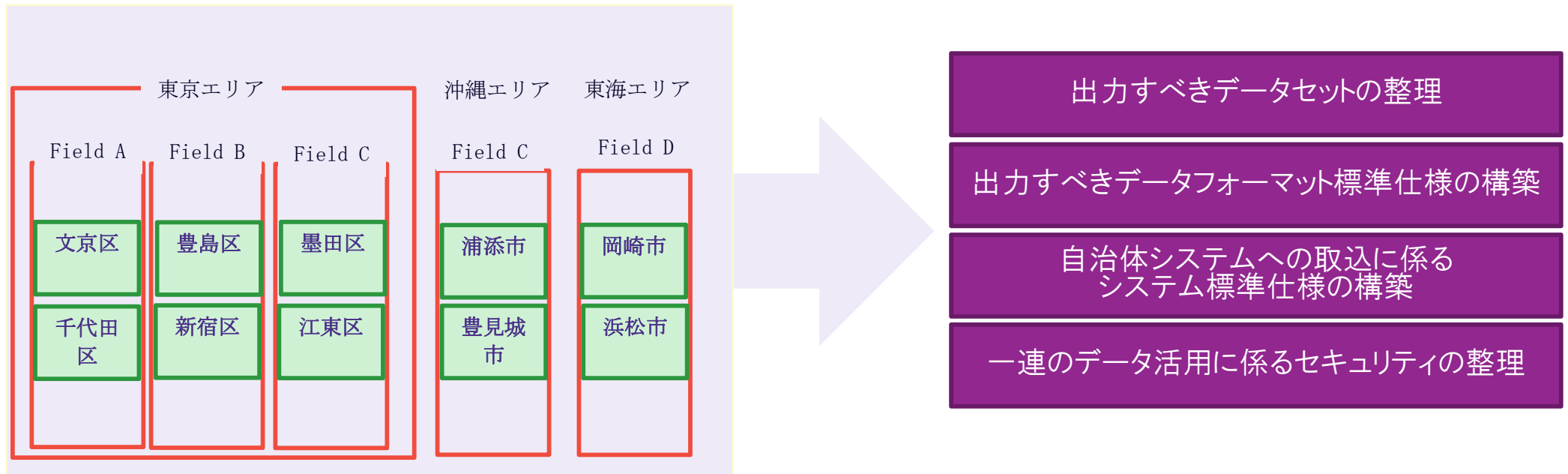


Field D (協力事業者：日本ユニシス【IoT開発事業者】)



# 【参考】保育関連データの活用を前提とした一連の保育関連システム設計

- 保育関連データの活用を前提とした一連の保育関連システムの設計について、実証調査フィールドごとの検討に限らず、フィールドを横断して情報共有をし、協議を進めます。
- 保育事業者からのデータを授受し、2ページのどのステップのデータ連携を図るかは各調査実証フィールドごとに決定します。



※その他、内閣府調査と連携しながら、標準仕様の作成を進めてまいります。

## 6. 実施ステップ

- 「IoT技術を用いた保育所内データベース構築の設計・試行」について、次のようなステップで実証を進めます。

### STEP 1-1 保育事業者 業務フローの確認

- ・関係書類の確認及び関係者へのヒアリングを通じて、保育事業者における業務フローを確認する

### STEP 1-2 IoT・IT技術導入のポイントを検討

- ・一日の業務の流れ（保育業務、事務業務含む）を確認します。
- ・その中で、IoTを活用することで業務効率が上がる業務を確認します。

### STEP 1-3 IoT・IT技術導入

- ・①②を踏まえ、IoTを導入します  
具体的には、登降園、検温、午睡チェックなどを想定しています。  
また、給付事務に関連した仕組みも導入します。

### STEP 2 実地調査

- ・②で導入した仕組みを実際に活用します。
- ・導入することでどの程度業務の効率化（保育業務、事務業務を含む）が図れたかを確認します。



1. 検証項目検討
2. 要件定義案の作成

- ・有識者検討会との検討を踏まえた上で、ユースケースやDFD(Data Flow Diagram)などを作成し、他システムとのデータのやり取りや機能面のみならず、非機能面や運用に関連する事項を取りまとめます。

## 6. 実施ステップ

- 「一連の保育関連システムの構築」について、次のようなステップで実証を進めます。

### STEP 1 出力すべきデータセットの整理（実態把握）

- ・各自治体が提出を求めている情報項目の整理する。  
各Fieldごとに自治体の資料を拝受し、必要項目を整理する。
- ・以下の項目の視点に基づいて整理する。

- 【給付費請求に必要な情報】
- ・毎月の申請に必要な項目  
－法定項目、自治体独自項目
  - ・新規利用時に必要な項目
  - ・年単位で必要になる項目

### STEP 2 出力のためのデータフォーマットの標準仕様の構築

- ・自治体における保育関連事務にて活用しているシステムの確認
- ・他自治体との検討を踏まえた標準仕様案を検討
- ・標準データフォーマットの検討
- ・データフォーマットの標準仕様の構築 ※ISO、JISなどの国際的な機関や国内で制定されたファイル形式を想定

### STEP 3 自治体システムへのデータの取込に係るシステム標準仕様の構築

- ・自治体システムへのデータ取込に係るシステムの標準仕様案の構築
- ・標準仕様の検討
- ・標準仕様の構築

※他システムとのデータのやり取りや機能面のみならず、非機能面や運用に関連する事項を取りまとめます。  
※保育業務に関連した独立した既存システムがある場合は、そのシステムへの取込方法について検討します。

### STEP 4 一連のデータ活用に係るセキュリティ等の整理

- ・地方公共団体における情報セキュリティポリシーに関するガイドライン等を参照してセキュリティ方針を提示する。

# 7. スケジュール

■ 次のようなスケジュールで本事業を進めます

	(11/14-)	11/20-	11/27-	12/4-	12/11-	12/18-	12/25-
委員会		★第一回委員会				★第二回委員会	
自治体	<b>STEP 1</b> ・関連資料収集 ・標準データセット案作成、検討		<b>★出力すべきデータ セット案提示</b>		<b>STEP 2～STEP 4</b> ・出力のためのデータフォーマットの標準仕様、自治体システムへのデータ取込に係るシステムの標準仕様、一連のデータ活用に関するセキュリティ等の整理 について検討		
保育所	<b>STEP 1-1, 2</b> ・保育事業者の業務フローの確認 ・IoT/IT技術導入のポイントを検討		<b>STEP 1-3</b> ・IoT・IT技術の導入 ※導入範囲、対象について検討結果を踏まえ実施		<b>STEP 3</b> ・導入したIoT/IT技術を活用 ・効果検証項目（時間等）についてデータ収集		
	1/1-	1/8-	1/15-	1/22-	1/29-	2/5-	2/12-
委員会							
自治体	<b>STEP 2～STEP 4</b> ・各案の検討 ・各実証調査フィールドにて、トライアルを実施（給付事務等が発生するタイミングでモック等活用し実施） なお、実施レベルは各実証調査フィールドにて協議の上決定する					・効果検証のためのヒアリング実施	
保育所		<b>STEP 3</b> ・導入したIoT/IT技術を活用 ・効果検証項目（時間等）についてデータ収集				・効果検証のためのヒアリング実施	
	2/19-	2/26-	3/5-	3/12-	(3/16)		
委員会		★第三回委員会			★報告書提出		
自治体	・実施結果の取りまとめ						
保育所							